

「目的に強く生きる」

～祈りと行いの伴う人生～

ネヘミヤ5:1～19

人類は永遠に生きていたいという願望を持っています。私たちは、元々、愛されたい、神さまに助けてほしい、という願望を持っています。「水母(クラゲ)」は、この世の中で永遠に生きる生き物です。ではそのクラゲは、何のために存在しているのでしょうか？クラゲを通してアジのこどもは守られ、カメはクラゲを食べて大きくなり、赤潮を何とかしようとしてクラゲが大量発生し海を掃除する。このように、その存在が永遠に生きても害がなければ、神さまはその存在を永遠にされるということがよくわかります。神さまは、もともと人間も害があるものとはしていませんでした。しかし今、人間は人としてあるべき姿ではない方向にすすんでしまっています。そこで、私たちの存在は一体何なのか、もう一度考えてみたいのです。神さまは自らを犠牲にして、私たちに「生きろ。」と言われました。なぜでしょう？

■ ネヘミヤ5:1～19

前回は、正しいことをしようとしたとき、大きな問題が起こるといふ外部からの攻撃に、ネヘミヤが自分の志を成し遂げようとする姿を見てきましたが、この箇所は、外部からの攻撃のあとに起きた内紛についてです。

ネヘミヤの願いは何だったのでしょうか？それは、同胞イスラエルの人たちが神さまと回復してほしいだったのです。捕囚の民であったネヘミヤがペルシアの王の献酌官になったのは、自分だけが幸せになったらよいという、自分の願いがそこにはなかったからです。ネヘミヤがそのような立場になったのは、その目的のためにそのようになっていった、ということです。「わたしは彼らの不平とこれらの言葉を聞いて、非常に怒った」(5:6)とあります。しかし、次(5:7)を見ると、「わたしは十分考えたうえで」と書いてあります。この「考えた」ということは、「祈った」ということです。したがって、ネヘミヤの怒りは感情的なものではなかったことがわかります。ネヘミヤが怒っていた怒りとは、不条理に対するものではなく、目的を果たそうとするときに、その目的を壊そうとする力に対するものでした。人間的な怒りであれば、「よく考える」ということはしません。

■ 目的に強く生きる～祈りと行いの伴う人生～

何かをしようとするとき、本当に祈っていますか？あなたの目的は何ですか？

私たちが、自己中心に生きるというマイナスを持っていたとしても、そのマイナスを払拭するほど神さまの計画を成し遂げるのであれば、その人の存在は豊かになるのです。「私の内にイエス・キリストが生きるんだ！」と決心できるとき、マイナスな部分があってもその目的のために生きようとするなら、私たちは生きていいのです。私たちが神様の前に出ることをゆるされる理由は、神さまが造ってくださった姿に戻り、その役割を果たそうと

するところにあるわけです。あなたは、何のために仕事をしているのですか？それが糧を得るためならば、奴隷と一緒にです。でも、「目的」のために仕事をしているなら、その結果として報酬を得るのです。目的があるから目標を定められるのですが、プロセスである目標を達成したからといって他者から評価を得られるも

のではありません。ネヘミヤは、その場しのぎではなく、自分の目的と起きている問題に対する解決をしたから打たれなかったのです。ネヘミヤの目的は、同胞イスラエルの人たちの神様との回復だったので、そのためにしなくてはいけなかったのは、人ではなく自分でした。祈りとみことばによる行動は、人に向けるものではありません。

同じようなことが旧約聖書にはたくさん出てきますが、そのひとつが「モーセ」です。問題が起きたとき、人の方法にたよるのか、神の方法にたよるのかのちがいを言っているのです。神さまは、してはならないことをモーセに言いました。それが十戒です。これを守れば幸せになれるという条件をモーセに与えたのです。このように書いてあるのにこれより違うものにたよろうとするのが、金の子牛なのです。私たちの中に金の子牛がないか、探らなければなりません。従わないことが偶像礼拝だと言っているのです。あなたは本当に従っていますか？目的を成し遂げる力を与えるのは神さまです。その目的のために目標を設定して、立ち上がるのはあなたです。それをできなくさせるのは、感情的な言葉です。ネヘミヤは感情的になっていなかったから、怒ったが考えられたのです。

■ ① 神様が任せたものを本当に愛しているのか？

愛するとは、「神さまの愛」です。本当に自分の存在としてそれを見ていますか？あなたが任されたところをあなたは今本当に愛していますか？もし外圧が来たとき、あなたはそれをやめたりしませんか？ネヘミヤは、不平を言う人を裁いたのでなく、人を集めて話し始めました。大事なものは、話し始めた、ということです。ネヘミヤは、敵国の奴隷でしたが、神さまとの回復という目的のために、ひとつひとつ丁寧に接し、置かれた場所が例え敵国でも、そこに咲こうとしたのです。愛したのです。今あなたが置かれている現状に、ルールはありません。神さまに聞いてその行いをしなければ、いつまでも目的に達することはできません。

■ ② あなたは何をまいたか？

これは、何を犠牲にしたか、ということです。妨害に向き合って立ち上がることが犠牲です。成功のためにまくのではなく、愛するもののためにまくものでなくてはなりません。相手が憎んだなら私は愛さなければならぬ、相手が裏切ったら私はもっと大切にしなければいけないのです。

■ ③ 神の怒りと人間の怒り 神の正義と人間の正義 不平か？ 行いと解決か？

神の正義は人を立てあげ、物事を解決していきます。なぜなら愛があるからです。しかし、私たちが行う正義は、裁いて人を蹴落とす正義です。ですから、私たちに正義はあり得ません。私たちが持てる正義は、批判でしかないのです。だから私たちは、感情的に何かをするのではなく、神の前に祈って、考えて、本当にそれが神の御心で、その目的を果たすものであるかどうかを考えなければいけません。

(要約者:秋山 恭子)

(2019年2月3日)